

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	ほんだ やすこ 本田 恭子	所属・職名 京都大学大学院農学研究科博士課程
e-mail	honday07@yahoo.co.jp	
発表題名 (英語)	Trends and Regional Conditions of Irrigation and Drainage Canal Maintenance in Japan	
著者名	Yasuko Honda	
会議名 (英語)	4th International Conference of Asian Rural Sociology Association (ARSA)	
開催地(国、市)	Legazpi, Philippines	
参加期間	2010年9月6日 ~ 9月12日	
<p><u>参加学会</u></p> <p>アジア農村社会学会 (ARSA) は世界農村社会学会 (IRSA) のアジア支部として 1996 年に設立され, 3~4 年ごとに大会を開いてきた。第 4 回目となる今年は “The Multidimensionality of Economy, Energy and Environmental Crises and their Implications for Rural Livelihoods” をテーマに, フィリピン・レガスピ市のビコール大学で開催された。参加者は 11 ヶ国から 113 名にのぼり, なかでも日本, フィリピン, タイからの参加者が多かった。報告者は “Social Change and Transformation II” というセッションで報告を行った。</p> <p><u>発表内容</u></p> <p>日本では, 近年, 農産物の価格低迷による農家の減少と農業者の高齢化や農村部における非農家の増加などにより, 農業用排水路の維持管理の粗放化が進み, 社会的な問題となっている。そこで, 報告者は農業用排水路の維持管理を規定する要因と地域性を解明するために, 統計分析を行った。分析には, 2005 年農林業センサスの都道府県レベルのデータを用いた。まず, 農業用排水路の維持管理を自ら行う集落の割合および非農家に農業用排水路の維持管理への参加を義務付けている集落の割合がどのような要因と統計的に有意な関連性を持つかを明らかにした。続いて, 農業地域類型ごとの農業用排水路の維持管理実施率を用いて, 都道府県の類型化を行った。</p> <p>主な分析結果は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地理的な意味での条件不利性や農家の家としての機能の低下は, 非農家戸数の増加よりも, 集落が農業用排水路の維持管理を行うか否かに大きな影響を与える。</li> <li>(2) 都市化の進む集落では, 非農家に対して農業用排水路の維持管理への参加を義務付けることが難しくなる。</li> <li>(3) 都市化あるいは過疎化の進む集落では集落が農業用排水路の維持管理を続けていくことが困難であるが, 両者の中間に位置する集落は維持管理を続けていきやすい。</li> <li>(4) 条件不利地域に属することは, 集落による農業用排水路の維持管理に悪影響をもたらすが, その影響の度合いは地域によって異なる。</li> </ol>		

学会発表渡航支援報告書

質疑応答

会場からは①農業用排水路の維持管理に対する政府や公的機関の対策についての質問と、②農業用排水路の維持管理において非常に重要なアクターであるはずの公的機関を分析対象としていないことへの疑問が寄せられた。1点目については、政府が集落による農業用排水路の維持管理を支援するために近年行っている政策について説明を行った。2点目については、日本は他国と比較してコミュニティの自律性が非常に強く、農業用排水路の維持管理も集落が主体となって実施され、公的機関はそのサポートに留まっていることを説明した。

